



「夢のありか」

中学生に助言

佐伯区で本紙記者

広島市佐伯区の五日市南中の2年生21人が7日、キャリア教育の一環として、若い世代の実像を追う中国新聞の連載「夢のありか」を題材に進路選択について考えた。

生徒は、少子化を背景に、大学への入学志願者と入学者がほぼ同数になる「大学全入時代」を取り上げた記事を音読した。取材班の加納亜弥記者(32)が解説し、「大学進学を考えると、生徒は「何を学びたいか分からない」



「将来の夢が見つかってない」などと答えた。加納記者は「自分の好

進路について加納記者(右端)と話し合う生徒
きなこと掘り下げ
て」と助言した。

西奥朱里さん(13)は「就職や大学進学はイメージできていない。きちんと考えたい」と話していた。この日は他の2年生約160人も班に分かれ、薬剤師や児童文学作家など18人から話を聞いた。

2012年(平成24年)6月8日(金曜日)

中国新聞 朝刊 地域面・広島都市圏(21面)掲載